

[様式 1 1]

(対象事業： 1. 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)
(2. 先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：アート・キット活用推進事業

事業者名：財団法人富山県文化振興財団
(富山県立近代美術館)

連携館名：砺波市美術館、高岡市美術館、
富山大学高岡短期大学部、
富山市立柳町小学校ほか
県内の小中学校

住所：富山市西中野町 1 - 1 6 - 1 2

TEL：0 7 6 - 4 2 1 - 7 1 1 1

FAX：0 7 6 - 4 9 1 - 3 2 3 0

HPアドレス：<http://www.pref.toyama.jp/branches/3042/3042.htm>



①施設概要

富山県立近代美術館は、昭和 56 年に開館。国内外の 20 世紀以降の美術を展望するとともに、郷土美術の伝統を確かめ発展させることを基本姿勢とし、新しい創造の可能性を見出すにふさわしい文化拠点としての役割を担う。展覧会活動は、20 世紀以降の美術作品やデザイン（ポスター、椅子）を収集し、常設展示室（5 室）で紹介するほか、年間 6 回程度の企画展を開催。また、館外展示施設（ふるさとギャラリー）や県内の公立施設との連携による展示、学校での作品展示も行っている。県民に親しみやすい生涯学習の場として、美術への理解を深め、創造の喜びを体験できる魅力的な教育普及活動も積極的に展開している。

②事業の意図目的

優れた美術作品の鑑賞を、子どもたちの豊かな感性の育成に役立てるため、近年、美術館ではさまざまな教育普及活動が展開されている。富山県立近代美術館においても、平成 13 年度から、子どもたちと美術をつなぐ体験的な鑑賞用教材「きんぴアート・キット」を開発・製作し、当館キッズ・コーナーで一般の利用に供し、好評を得ている。

この「アート・キット活用推進事業」では、これまでの活動の成果をさらに発展させ、広く他館や学校等と連携し、新たな教材開発とその多面的な活用を行うことによって、美術の教育普及活動の拡大を図ることを目的とする。

③事業概要

- (1) 当館が組織・運営する「美術鑑賞教材研究会」により、新たな教材(きんぴアート・キット)を立案する。
- (2) 既存の教材(7 種類)をより工夫して改良し、複数製作を行う。
- (3) 教材活用のための補助資料(印刷物)を製作する。
- (4) 上記の教材等を生かした美術館内外での活動を展開する。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 美術鑑賞教材「きんぴアート・キット」(くるくるレイヤーほか) 7 種
ワークシート 3 種、パンフレット 1 種
作成した報告書等 なし

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 約 19,950 人
内 訳 キッズ・コーナー利用者及び館内行事参加者 約 7,850 人
館外事業参加者 約 12,100 人

(1) 事業の実施状況について

教材「きんぴアート・キット」の製作

新たに2種類の教材「くるくるレイヤー」「ちょイス」を開発、製作した。また、昨年度までに開発した教材は7種あり、その中から5種類について改良を加え、複数製作を行った。

(これらの詳細については、(3)を参照)

ワークシートやパンフレットの製作・配布

教材を活用する際、補助的な役割をするワークシートを3種類製作した。

- ・「ふしぎミラー」ワークシート

ふしぎミラーに映るゆがんだ世界を描いてみる。

- ・「ことばパタパタ」ワークシート

いつ、どこで、どんな、だれが、どうした、の5個のことばを組み合わせて出来た不思議な文章を絵に描いてみる。キッズ・コーナーに残された名作は数多い。

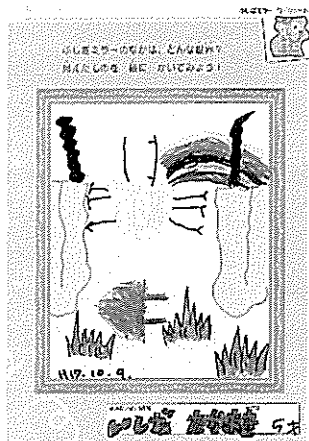
(「眠れない夜、銀河で、傷だらけのタワシが固まる」「風の日、戦場で、ぼろぼろの青空がこぼれる」など。)

- ・「椅子とあそぼう」ワークシート

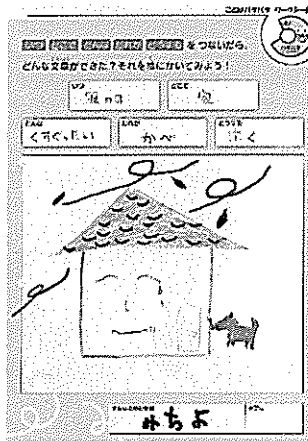
新しいキット「ちょイス」の活用のため、自由に椅子をデザインできる立体ワークシートを作成した。

- ・パンフレット「きんぴ アート・キット活用術」

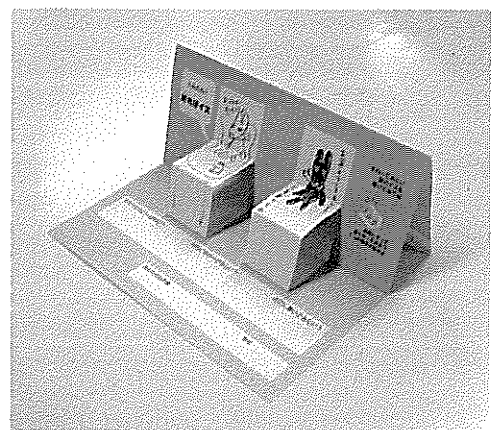
9種類の教材の使い方をわかりやすく紹介し、キッズコーナーの利用やアウトリーチ活用を呼びかけるパンフレット。県内学校等に広く配布した。



「ふしぎミラー」ワークシート



「ことばパタパタ」ワークシート



「椅子とあそぼう」ワークシート

教材の活用ー館内利用（キッズ・コーナーでの配置 及び ワークショップの開催）

富山県立近代美術館では、平成15年春の改修工事の際に、キッズ・コーナーを新設した。アート・キット、映像機器（アニメーション上映）、絵本を配置したこのコーナーは、いつでも子どもたちや親子連れが楽しめる場所となっている。

アート・キットについては、「いろいろカラー」のみをここに通年配置し、他の8種類を年3回入れ替え、来館者が自由に楽しめるようにした。

また、企画展や常設展に関連しながら、作品（展示室）と教材をつなぐプログラムを考案し、ワークショップとして3回開催した。

- ・「吹き出しであそぼう」 9月10日（常設展示Ⅰにて）

キット「ことばパタパタ」を常設展示室に置き、所定のことばを組み合わせるとある作品を表す文章になることを伝え、その作品を探し出す。今度はその作品が発することばを想像し、吹き出しに書いて絵の横に貼り付け、参加者とともに自由に話し合う。

- ・「くるくるレイヤーであそぼう」（企画展「トライ・アート」にて）

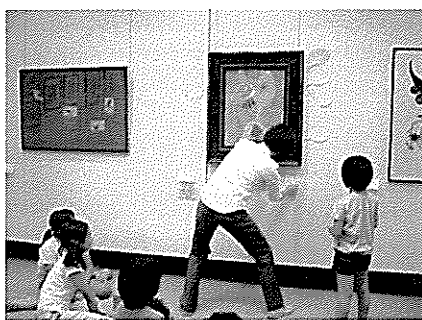
新しいキット「くるくるレイヤー」を用いるワークショップ。自分で新たな絵を貼り付けたり、5枚のプレートに紙芝居のように用いることで、この教材の活用の可能性を広げた。

- ・「AS YOU ちょイス」（常設展示Ⅴにて）

当館所蔵の椅子コレクションに実際に座ってみたあとで、椅子のワークシートを用いて、「ちょイス」に入りたい椅子のデザインを試みた。



ワークショップ「吹き出しであそぼう」



ワークショップ「AS YOU ちょイス」

教材の活用—アウトリーチ活動

この「アート・キット活用推進事業」は、館内でのアート・キットの利用にとどまらず、多彩なプログラムによる館外活動を展開することによって、より先進的で有効な教育普及活動を行おうとするものである。そのため、当館の館外展示の機会や、県内の小・中学校での活用、市町村立美術館への貸し出し、家庭教育を考えるフォーラムへの参加など、多面的にアウトリーチ活動を展開し、美術の楽しさやすばらしさを伝える機会とするとともに、美術館に対する親しみを深めてもらう機会とした。

- ・太閤山ランドふるさとギャラリー

県西部に位置する運動公園の一角にある、富山県立近代美術館の館外展示施設。収蔵品展「鏡の迷宮・大冒険」にあわせ、美術作品とともに、「ふしぎミラー」本体とワークシートを配置した。

- ・学校での活用

当館事業「学校一日美術館」の開催校でキット利用の希望のあった場合や、選択美術授業での活用を行った。

- ①学校一日美術館 使用したキット：「いろいろカラーJr.」「くるくるレイヤー」
 高岡市立定塚小学校（9月26日） 滑川市立田中小学校（9月27日）
 高岡市立南条小学校（9月28日） 南砺市立福光南部小学校（10月4日）
 小矢部市立津沢中学校（10月12日） 魚津市立西布施小学校（10月14日）
- ②選択美術授業「アート・キットがやってきた」富山大学附属中学校（3月6日）
 使用したキット：「いろいろカラーSHOP」「くるくるレイヤー」
 「ゆらゆらツリー」

・他機関との連携

①全国家庭教育フォーラム in とやま

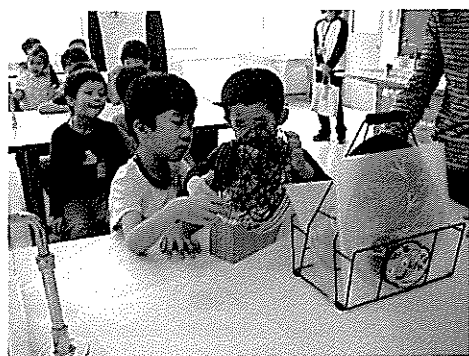
富山国際会議場（10月9日）

使用したキット：「ゆらゆらツリー」「ふしぎミラー」（ワークシート併用）

②砺波市美術館（10月4日、11日）

企画展「森村泰昌展」に合わせた子供の造形アトリエでの活用

使用したキット：「へんしんマント」



学校一日美術館にて「くるくるレイヤー」



富山大学附属中学校での選択美術授業
「いろいろカラーSHOP」



砺波市美術館にて「へんしんマント」

（2） 地域との連携について

富山県立近代美術館では、小・中学校の教師、大学等の教官、美術館学芸員によって構成する「美術鑑賞教材研究会」を組織・運営し、美術鑑賞の可能性を広げるための具体的な教材の研究、試作を行い、また、教材を美術館の教育活動や学校教育との連携に多面的に役立てている。

平成17年度 美術鑑賞教材研究会

区 分	所 属	職 名	氏 名
小学校	富山市立柳町小学校	教 諭	横山 隆宣
	高岡市立下関小学校	教 諭	大門 信吉
中学校	砺波市立庄西中学校	教 諭	小野美恵子
	富山大学人間発達科学部附属中学校	教 諭	藪 陽介
大 学	富山大学芸術文化学部	教 授	中村 滝雄
		教 授	小松 研治
美術館	砺波市美術館	主 幹	橋本 文良
	高岡市美術館	主任学芸員	山本 成子
	富山県立近代美術館		

（3） 成果物について

平成17年度は、2つの新しい教材と5つの改良教材を追加製作した。新たな教材の概略は次のとおり。

新 教 材

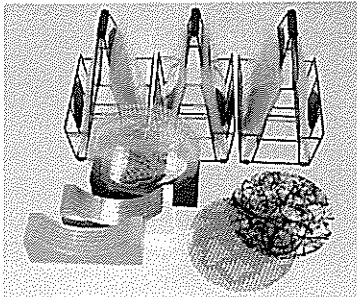
①くるくるレイヤー

丸く透明なプレートには、さまざまな色や形が描かれており、それらを組み合わせて、層（レ

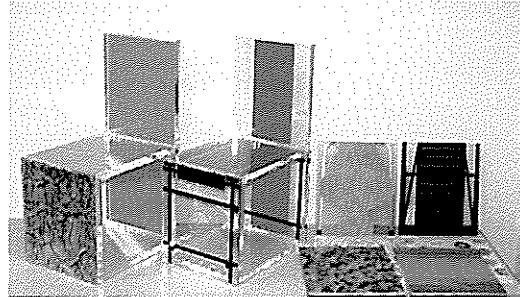
イヤー)をなしてくるくる回る絵を楽しむキット。台座は、アルミ、木、ゴムの3種類を用意し、5枚のプレートを自由に選んで立てることができる。

②ちょイス

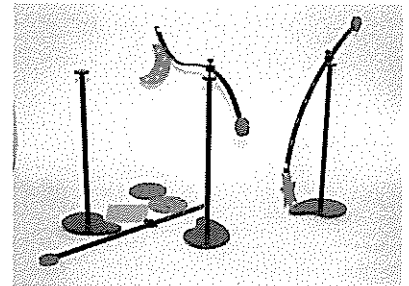
透明アクリルでシンプルな椅子を形作っておき、背、座、前、後の4枚のシート(さまざまな模様入り)を差し込んで、椅子をデザインする。小さな子どもが座れるサイズ。シートは8種。今後は、自分で描いた絵を差し込めるようにする予定。



くるくるレイヤー



ちょイス



MYゆらゆらツリー

改良教材

①いろいろカラーSHOP

既存の「いろいろカラー」は、キッズ・コーナーに常時配置し、最も利用されているアート・キット。改良版は、組み立て式でワゴンタイプの「いろいろカラー」。既存の「いろいろカラーJr.(おかもちタイプ)」と組み合わせ、館外活用で使用する。(前頁参照)

②MYゆらゆらツリー

既存の「ゆらゆらツリー」は大型でグループで試みる教材である。改良版は、一人で遊べる小さなモビール3種とした。

③ふしぎミラーBOX

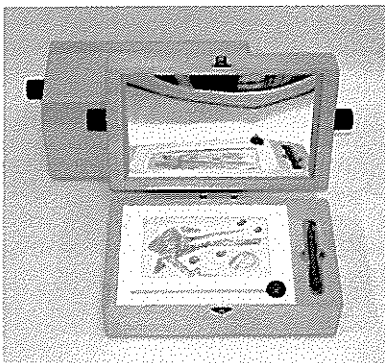
既存の「ふしぎミラー」は複雑なクランク構造を内蔵した大きな鏡面を持つ据付型。改良版はクランク構造がひとつの小さなふしぎミラーで、蓋をつけ、一見何かわからないものを開ける楽しみを加える。中にオルゴールを仕込んで「音」を加えた。

④スペース・あやトリック2

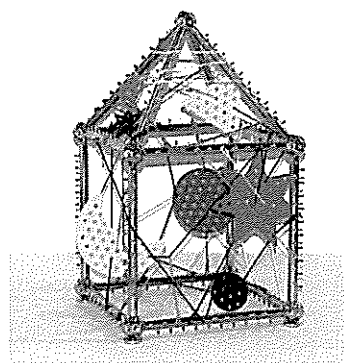
既存の「スペース・あやトリック」に、三角形構造を加えた。また、空間に面を浮かすようなパーツを加えた。

⑤へんしんマント2

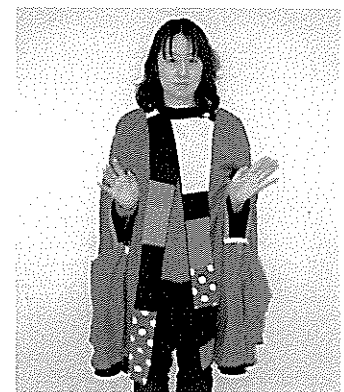
既存の「へんしんマント」の内側に色鮮やかなパッチワークを施し、リバーシブルで2通りに着用できるよう改良した。



ふしぎミラーBOX



スペース・あやトリック2



へんしんマント2

(4) 参加者の反応

美術作品は、多くの場合「見て」楽しむものである。とはいえ、美術館では、作品管理の

ため、展示室において一定の監視下で静かに鑑賞してもらうことが通例のため、子どもたちは制限の多い美術館に自ら望んで出向くことは少なく、彼らに美術作品の価値や面白さを伝えるためには、静的な美術鑑賞にとらわれず、積極的に受け入れ態勢を工夫する必要がある。

当館の教材製作は、そうした必要性から生まれたものであるが、美術鑑賞教材研究会での最初の議論は、教材の性格付けであった。協議の結果、特定の美術作品をやさしく解説するような性格のものではなく、20世紀美術のさまざまな表現の要素を取り入れたニュートラルな教材の開発を目指すこととした。たとえば、「色」「かたち」「素材」「構成」「デフォルメ」「動き」「ことば」「記号」などの要素を、簡潔かつ体験的に理解できることが重要と考えた。また同時に、使い方がわかりやすく楽しいこと、見た瞬間にさわってみたくなる外観（イメージやデザインの工夫）を持っていることを基準とした。

検討と試作を重ねて生まれたこれらの教材は、手に取る人たちが美術の楽しさを「さわって」体験することができる。キッズ・コーナーで偶然キットに出会って得た体験、ワークショップで得た体験、学校にアート・キットがやってきて得た体験は、参加者の表情や口々に発する感想、感想文を見ると、楽しい、面白いといった感想とともに、美術の世界にふれた新鮮な驚きを感じられる。「さわる」ことと「見る」ことが一体となって、美術の世界を知ることが出来れば、このキットは意味を持つものになると考えている。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

・教材の充実

新しい教材の開発、既存教材の改良製作を行ったことで、「きんびアート・キット」は9種類となり、バラエティ豊かな内容となった。キッズ・コーナーの充実、キットの内容によるさまざまなワークショップの開催、作品展示内容に即したキットの活用など、多彩なプログラムを展開することが出来た。

・アウトリーチ活動の充実

これまで試験的に行っていた館外でのキットの活用を、この事業の展開をきっかけとして、積極的、恒常的に行うことが出来た。結果として、アート・キットの存在を広く県民に伝える機会となり、美術館の存在自体がより身近なものとなった。